

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'94
12 月号【1日発行】

絶好調！「はりきってます」グループ紹介



富士見のいちよう並木(川崎区)



いまを話す

世界的ピアニスト 小川典子と来春「共演」する
白山中3年のチェロ奏者 丸山朋文さん

好評前売り中

かわさき・ニューイヤーコンサート

小川典子とオーディション合格者による演奏会



小川典子さん

'95年1月8日(日)

開場 PM1:30 開演 PM2:00

川崎市教育文化会館大ホール

全席自由 2,000円

出演 第一部

千田栄子(ピアノ)・丸山朋文(チェロ)

多田新一(サクソフォン)・船石桐子(マリンバ)

谷口 伸(バリトン) 以上オーディション合格者

第二部

小川典子(国際的ピアニスト)

曲目 ムソルグスキー「展覧会の絵」ほか

発売所 当事業団・各市民館・川崎音協・

西友鶴見店(チケットセゾン)

主催 (財)川崎市生涯学習振興事業団/川崎市教育委員会

問い合わせ ☎(952)5000の当事業団 ☎(233)6250の当事業団分室

Stage Up 12 月号もくじ/1994年

■ほんねインタビュー いまを話す 3

世界的ピアニスト小川典子と来春共演する
白山中3年のチェロ奏者 丸山朋文さん

◎はりきってます グループ紹介 8
パッチワークを楽しむ

懐かしい音色に心響かす
ピンの会

大正琴愛好会

◆心にのこる私の一冊 10

「ビルマの竖琴」 多摩区、森泉英雄さん
「雙蝶―透谷の自殺」 麻生区、入江節次郎さん

●学習・文化情報 11

●ミニニュース/読者の声/編集後記 15

◎表紙絵………富士見のいちよう並木(川崎区)

清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

ほんねインタビュー

川崎の中学三年でチェロ奏者、丸山朋文さん(15)が来年一月八日、教育文化会館で開く「かわさきニューイヤークンサート」で世界的ピアニストの小川典子さんと「共演」する。その出演者を決めた「かわさき新人音楽会公開オーディション」の合格者の最年少が丸山さん。吉田貴壽・審査委員長(昭和音大学長)は「飛び抜けてうまかった。将来に期待が持てる」と絶賛。丸山さんは「チェロの音色が心に響き、なにか落ち着く」と魅力を話す。チェロは六歳から

いまを話す

ゲスト

来春、世界的ピアニスト
小川典子さんと「共演」の

丸山 朋文 さん(15)

Vol. 30

心に響くチェロの音色 「将来に期待」 昭和音大学長 吉田氏が絶賛



習い数々のコンクールで入賞。二の夏、音楽の道を決意しア・テストも欠席。だが気負いはなく、その素顔はかつて学校との両立、友人関係で悩んだ普通の中学生。母、博子さんに同席をお願いした。インタビューは伊藤眞弓さんが多忙のため小誌・熊野史子が担当。

——— すてきな演奏を聞かせていただき、ありがとうございます。丸山さん 来年一月の「かわさきニューイヤークンサート」で演奏する曲なんですが、まだメチャメチャです(首を振って)。全然仕上げっていないんです。
——— なんといい曲ですか。

丸山さん 「D・ポツパーのチエロ協奏曲ホ短調第一楽章」です。最近、あまり演奏されてませんが、個人的に好きなんです。チエリスのポツパーの作曲で、チエロの技術がもろに分かる曲なんです。
——— すごいチャレンジ精神ですね。この夏の「かわさき新人音楽会公開オーディション」も、そんな気持ちで受けたのですか。
丸山さん 審査員の先生方が素晴らしいかったので、結果よりも僕の演奏を聴いてもらい講評をいただくのが目的でした。それに参加料も無料だったし……(笑う)。

——— 十月号のステージアップにも掲載していますが、吉田審査委員長が「技巧的にも優れ、飛び抜けてうまい。曲もしっかり把握している」と賞賛しています。
丸山さん 僕は、びっくりしたんです。普通に練習をしてきただけだったので……。
——— どのように練習をしているのですか。
丸山さん えーと、譜読みから始めて、強弱記号をもとにテクニツク的な部分をマスターします。同時に「ここはこんなふうにしたらいいか」と頭に浮かんだこと

6歳の時、音楽祭へ行き感動 小学生ではスポーツが好き

を奏できます。それが出来てから、納得できないところを直すんです。その繰り返しで演奏がどんどん変わってくるんです。

——オーディションに参加すること、さらに磨かれる？

丸山さん さあ。自分の音楽がどう評価されるかもありますが、ステージで自分が上がらない練習にもなります。他の人の演奏を聴き、そこで知り合った人たちと話すことも楽しいです。

——チェロを始めたのは六歳。なぜ、チェロを選んだのですか。

丸山さん 母に連れていってもらった田沢湖の音楽祭で、オーケストラの演奏や練習中のいろいろな楽器を聴き「チェロの音は、いいな」と感じました。チェロの振動のような音色が、心に響いてきて何か落ち着くんです。

——チェロは、バイオリンより音を出すのが難しいそうですね。丸山さん 弦をしつかり押さえ

る指の力がバイオリンより大変だと思います。指を鍛えるため壁運動や鉄アレーで、筋力トレーニングをしています。始めたころは本当に痛かった（皮が厚くなった指を見ながら）。

——小学校のころは、サッカーや水泳もやっていましたね。

丸山さん あのころは、スポーツの方が好きで、音楽は勉強とい

う感じがして。

——ほー。それなのに音楽が続けられた。チェロが嫌いになったことはないのですか。

丸山さん 練習が嫌だと思ったことは、しよつちゆうです。でも、チェロの音色はやっぱりいいし好きで、漠然とですが小学校五、六年ごろから「音楽の道もいいな」と思うようになりました。

——普段の練習時間は。

丸山さん 学校から帰って、午後五時半から六時半と七時半から九時半までです。コンサートやオーディションがある前は長くなります。練習を続けても頭に入らな

い時は、休んで気持ちを入れ替えてからやります。

——気分転換がうまいのですよね。ゲームはしないのですか。

丸山さん 興味はありますが、あまりしません。中学二年ぐらいまでは、ラジコンをやっていました。

——学校の部活動は。

丸山さん 郷土史研究会に入っています。運動部だとみんなに迷惑を掛けるので……。

——ところで、ア・テストを受けなかったそうですが、大変な決断だったのでしょうか。

丸山さん はい。ア・テストのための勉強もしていましたが「全日本ソリストコンテスト」があったんです。ア・テストは、日程的には受けられたんですが、コンテストの本選前で心理的に余裕がなくなると思いましたが、ア・テストをとりませんでした。

——ご自分で決めたのですか。

丸山さん はい。学校の担任と学年主任の先生に相談し「自分が本当に目指す方向を見失わないように。自分の将来のことは、自分で判断しなさい」とアドバイスされました（さらにと）。

——その時、お母さんは、どうなさいましたか。





母・博子さん あらゆることに「は」とき」というものがあると思うんです。目が開かれ、耳が開かれ、感性が開かれ、その子の「勢い」ときがあると考えています。朋文の場合、それが中学二年の夏で、その勢いと本人の気持ちを大切にしました。中一までは学校との両立を目指したのですが、一つの転機でしたね（静かな口調で）。

朋文さん本人が自分の目指す方向を決意された。

丸山さん 去年の夏「音楽に進もう」という気持ちになっていたのです。だから去年、学校の夏季施設に参加したかったんですが、

霧島国際音楽祭チエロ
ロマスタークラスで

「自信ついた」

プロめざす大学生に出会い

霧島国際音楽祭チエロロマスタークラスの方を選んだんです。

——それだけ音楽への思いが強くなっていったんですね。

丸山さん うーん。霧島には、旅行気分で行ったんです（いたずらっぽく笑う）。でも、霧島に行っただけで自分がかく変ったと思います（うなずきながら）。

——それは精神的にですか。

丸山さん それまでは自信がなかったんです。中一の冬に参加した「モスクワ・コンセルバトリア・マスターコース・イン・ジャパン」は、刺激になって良かったんです。けれど、欧米と日本のレベルの差に、すごいショックを受けて帰ってきたんです。

——あのマスターコースというのは、将来、プロの音楽家を目指している人のクラスで、世界的に期待される新人の集まりですね。霧島も優秀な音楽家が集まったでしょうが……。

丸山さん そうです。霧島は大学生がたくさん来ていて、そのレベルに追い付こうと練習しているうちに自信がきました。受講生同士で「悪いところはこうやるんだよ」と教え合ってます。みんなが優しくしてくれて。

——お兄さん達が、丸山さんのことを「中学生なのに手強い」と思ったでしょうね。

丸山さん いやあ、迷惑だった



んじゃないかな（てれる）。でも、あれから気持ちが積極的に変わり、チエロが本当におもしろくなりました。それまでは「コンサートやオーディションまでに間に合わせればいい」と安易な気持ちがあったと思います。霧島に行ってから「曲をつめて弾きたい。よりいいものにしたいたい」と思うようになりました。

——霧島でいちばん印象に残っ

丸山 朋文さん

まるやま・ともふみ=1979年東京都生まれ。六歳から勝田聡一氏に師事。小三から桐朋学園の音楽教室に。中一でモスクワコンセルバトリア・マスターコース・インジャパンで将来のプロ演奏家として指導を受ける。受賞は、小四で鎌倉音楽コンクールチェロ部門第一位の教育長賞、中二の春、全日本ソリストコンテスト中高生の部で審査員賞。現在、川崎市立白山中学3年。麻生区白山で両親、兄、妹と住む。

たことは。

丸山さん 十三日間のキャンプ中、夜中まで音楽のことを話し合ったことかな。今でも文通をしたり、演奏会で偶然会えば心を聞いて話し合います。

——いいお話ですね。音楽家はみんな、心が広いのですか。

丸山さん チエロ演奏者は少ないので連帯感があるようです。親しくなった人がどんどん増えていきます。

——すばらしい仲間たちですね。丸山さんのご家族は音楽一家。家庭環境にも恵まれていますね。

丸山さん はい。父が声楽、母がピアノとチェンバロ、兄と妹がバイオリンです。

―楽器を始めたのは、ご両親の方針ですか。

博子さん 子供が成長して、心の「つまずき」があっても、それを癒せる家庭にしたい。それには家族をつなぐものが必要ですよね。うちでは、ごく自然に楽器を奏でることになったのです。

―朋文さんが「チェロをやり



不調に悩み「僕はやめる」に「やめたら」と母

きずな

家族の絆深める楽器

たい」と言ったときは……。

博子さん 小さな子供のことで、すから、きまぐれと思っていいたら、毎日「お母さん、いつから僕にチェロを習わせてくれるの」と聞きます。本気だったんですね（笑い）。

―朋文さん、相性のよい楽器に出会えてよかったですね。家族全員で演奏をされることは。

丸山さん 今年の正月、四人で演奏しました。父は、気分がのると突然歌い出し、母も家事を置いてピアノを弾きます。僕のチェロを両親が弾くこともあります。

―クラシック以外の好きな音楽はありますか。

丸山さん 好きなものが変わってちやうんです。ドラムが入ったテンポのあるのが好きだったり、岸谷五朗のラジオ番組も好きでよく聴いていた時……。ポップス系の曲やファミコンの音楽をピアノで弾いたりもします。

―CDはよく聴くんですか。

丸山さん 最近までCDに興味がなく、全く聴く気がしなかったんです。ところが、サン||サーンスのコンチェルトを練習した時、



いろんな演奏家のCDを聴いたら、おもしろくなり、それからどんどんCDを聴くようになりました。

―ひとつの物事に対して、し

っかりと自分の意思を持つていますね。スランプになったことは。

丸山さん 何回もあります。母に「僕は（チェロを）やめる」と言ったこともあるんです。

―八つ当たりですか。

丸山さん 母は「やめれば……」

と冷静に言うんです。母が困ると思つて「やめる」と言ったのに、それが通用しない（苦笑い）。

母・博子さん だって、本人が嫌だったら、本当にやめたらいいと思うんです。

―本当にやめたい、と思つたことはないんですか。

丸山さん 一、二度あります。僕が友達と離れていきそうで嫌だったんです。友達との遊びとチェロのレッスンのバランスでも悩みました。でも、レッスンをやめたいとは思わなかった。桐朋大付属「子どものための音楽教室」のオーケストラに参加しているので、責任がありますから。でも、友達は大事です。

―朋文さんは演奏する直前、目をつぶって、そのまま、すーつと演奏に入つていき、弾き出すと頭が揺れます。あれは、曲のイメージを描いているんですか。

丸山さん CDを聴くようになってから、ピアノ伴奏だけでも、オーケストラのように聞こえてくるようになりました。気持ち曲に入り込んでいるから、頭が自然に揺れるのかな。

―いろいろな人や音楽と出会

ほんねインタビュー

うれしいオペラハウス構想 音楽家は住民に愛されてこそ

芸術のまちへ



い、その感動の数だけ表現力が豊かになると思っています。十五歳、心が柔らかいんですね。

丸山さん (真剣に) いやー、すごく堅かったんです(笑い)。まだまだ堅いです。

さて、川崎市は新百合ヶ丘地区を「芸術のまち」にしようとの構想があるのですが、音楽家としてどんな街にしたいですか。

丸山さん 僕は、多くの有名な演奏家呼んで、コンサートを開いて欲しいという意味では「音楽のまちづくり」ですね。もつと若い人たちに、演奏する場所や機会を提供してほしいです。

若い音楽家の横のつながりはあるんですか。

丸山さん はい。このあいだ、僕の学校の留学生歓迎会で、友達と三人で、モーツアルトのピアノトリオを演奏しました。学校先生のなかにもうまい人がたくさんいます。

そういう形で、音楽が身近にあるといいですね。高橋市長さんが、ステージアップの座談会で「麻生区にオペラハウスをつくりたい、グレードの高い練習場も」という話をしていましたが。

丸山さん すごくうれしいです。本当にオペラハウスができると思います。川崎の人は、本当に音楽を理解してくれていますから(目を輝かせて)。

将来、どういう活動をなさりたいのですか。

丸山さん オーケストラや室内楽で通用できる演奏家になりたいと思っています。

お母さんはいかがですか。博子さん 近所あつての朋友なんです。マンション住まいで音が漏れることがあっても、みなさんが快く理解して下さって。多くの人に支えられていることを忘れず、地域の人に愛される音楽家を目指してほしいですね。



小誌・熊野史子

オーディションの吉田貴壽・審査委員長が講師で「さらに精進して」と慢心を戒めています。

丸山さん 僕はまだまだなんです。「足りないところだらけ」と自覚しています(うなずいて)。

謙虚に自分を見つめていますね。

丸山さん 年が経つと曲の解釈が変わるんです。後で自分の演奏を聴けば駄目だと思いかもしれない。その時は未熟でも納得してチェロが弾ければいいという気持ちです。チェロは僕にとって最高の

音楽であり、楽器です(きつぱりとした口調で)。

題字は高橋清・市長
構成／野々川千恵子
文責／田中 閑

「いまを話す」30回目を迎えて

「ほんねインタビュー」いまを話す」は、好評のうちに今号で30回目を迎えました。みなさまのご支援に感謝いたします。各界の第一線で活躍の方々の方々の生き方や考え方を直直にお聞きし、みなさまの「学び、考え、論議する」素材になることを願い、幅広いジャンルの方々に登場していただくことが出来ました。

多くの読者から「川崎における隠れたバスターラ」 「次号にどのような市民がゲストとして登場するか楽しみ」との声が寄せられています。市民インタビューの「陰の力」を忘れることはできません。今後とも、ご意見やゲストの推薦をお寄せ下さい。

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

住む住む。



小布に思い出こめ 愛情伝わる作品を

第二水曜の午前と土曜の夜、川崎区渡田新町のサンライフ川崎で、布に愛情を込めて一針一針、縫い合わせ、手提げバックや小銭入れ、レターラック作りに目を輝かせる。津田谷代表が出した「宿題」をそれぞれが自宅で縫い、定例会で仕上げ、なごやかに品評し合う。

この日は、何種類かの布を大小の三角形と四角形に裁ち、それを組み合わせて、三〇センチ四方の布にするフラワーカーテン作り。

それぞれ会員のセンスで赤や茶ブルーなどの異なる色のフラワーカーテンをつなぎ合わせ、ソファカーバーやこたつカバーなどを縫う。小物は数十分で作れるが、ベツドカバーは、約四十枚ものフラワーカーテンを縫い合わせる。

パッチワークは、それぞれの会員の「熟練度」で大小の手芸が楽しめるのが魅力。

真剣な表情で布に型紙を置き線を引くヤングママ。縫い上がったフラワーカーテンにアイロンを掛ける中年女性。

出来上がった作品を机に広げ、津田谷代表が「配色を考えてみましょう。もう少し離れて見ると感じが分かりますよ」と助言。「真ん

中の布の種類や色を変えただけで感じが変わるのね」「とつてもすてき。お部屋のムードが良くなるわよ」と和やかなムード。

同会の合い言葉は「作ったらすぐに使えて、人に自慢のできる作品を作ろう」。世界に一つしかない手作り品は「家族のアルバム」ともいえそう。

同会の発足は十一年前。神奈川県成人学校の受講者が集まりスタートした。

黒沢靖子さん(52)は「縫うことは楽しい。お友達に小物を贈ると喜ばれます」とうれしそう。

佐藤あき子さん(42)は「和風のデザインが好きで、浴衣や着物の布を組み合わせました」。

池田恵子さん(39)は「布の配色が難しい。イメージ通りにいかない苦労も楽しいです」と話す。

津田谷代表は「温かい気持ちで伝わる百年経つても傷まない木綿のパッチワークを贈り、何十年か過ぎた時、作品が思い出になったら、すてきですね」と語る。

同代表宅は、川崎区南町七の一。☎(2333)5194。

文／小誌・山本綾子
カメラ／小誌・熊野史子

ピンクの会

子どもが成長して着られなくなったTシャツや派手なプリントのシャツ、ズボンの裾上げの余り布など、家族の思い出が染み込んだ

ものを小布にして組み合わせ、パッチワーク(手芸)を楽しむのは「ピンクの会」の津田谷富美子代表(48)ら三十八人。

ピンクの会

ワイド版

はりきってます グループ紹介

懐かしい音に心響かす

大正琴愛好会

庶民の歌を哀愁を帯びた音色で奏でる大正琴が、いま中高年の間で静かなブーム。幸区の「大正琴愛好会」―奥津玉江代表（65）ら五十七人は金曜の午後、幸市民館でその懐かしい響きに浸っている。

この日は、翌日に迫った幸区民祭りと、十一月のコンサートに向けた仕上げの練習に熱が入る。「夕やけこやけ」「千曲川」「星影のワルツ」などの曲を、琴心流家元の那須道子さん（45）が、歌を歌い拍子をとりながら指導。間には「それ」「はい、ゆつくりね」と、合の手を入れたり声をかける。テンポが崩れないよう会員も心の中で歌う。曲が進むにつれて、歌のイメージが膨らみ胸に響く旋律になる。

会は星組、月組、花組とレベルごとに分かれ練習。初心者に門戸を開放している。

大正初期に生まれたこの楽器は、白黒のボタンを左手で押し、右手

のピックで絃をはじく。四、五本の絃を同時に弾くと、微妙な音が重なり合い、なんともいえない柔らかい音が出る。あざき色の共鳴

ロマンの香りが漂う
柔らかな音の重なり



箱にタイプライター式のキーは、セミア色のロマンの香り。

一台では単音しか出せないが、数台で奏でると旋律と伴奏に分かれて合奏もできる。他の楽器との相性もよく、上達するとベーターペンやモーツァルトのアンサンブルも楽しめる。

同会は昭和五十八年の秋、幸市民館の成人学校終了後、愛好会と

して発足した。最初はむずかしく、ついていけない人や高齢で辞める人もいたが、「一、三カ月して曲を弾けるようになる」と楽しくなる。

会員は、三年前の那須先生の琴心流の創流に立ち会い、いまでは流派の大演奏会や幸区の「ふれあいコンサート」など年間五、六回も出演している。みんなで作る衣装も女性には楽しみだ。

会発足当時から参加の石井幾雄さん（83）は、「少年のころの大正琴は、おもちゃみたいでしたが好きで、十台もつぶしました。自己流ではなく、きちんと弾けるようになりました」と言う。

加藤清美さん（47）は、「少女のころ、母が弾いていた大正琴の音が大好きでした。いま、夢中で練習に励む自分の姿と母の姿が重なり合うことがあります」と話す。

奥津代表は「楽器としては値段も大きさも手頃。こたつの上でもできるので気軽に楽しめます。もつと大勢の方に参加してほしいですね」と優しく笑う。

同代表宅は幸区小向町一〇の二。
☎（522）16886。

文／小誌・熊野史子
カメラ／小誌・山本綾子

仲間と楽しむ

学び

活動する

生活を楽しむ。

竹山道雄 著 ビルマの堅琴 新潮社

伝えたい戦争の悲惨さ

多摩区寺尾台 森泉 英雄

毎年夏になると終戦の日のことを思う。来年はそれも五十年という節目の年を迎えるので、言論界やマスコミでも今後さまざま企画



小田原出身の明治が生んだ天才的文学者の北村透谷は、一八九四(明治二十七年)五月十六日の未明、いまの東京タワーの真下にあった自宅の庭先で、二十五歳という早すぎる命を自ら絶った。それから百年後の同じ日に、この書物は刊行された。

著者の永畑さんは「天界地界を縦横にかけめぐる思想のほとばし

画が取りあげられるのではないが。戦争の悲惨を語り、その悪を糾弾し、責任を問い、そのことが平和を護るために必須の条件とばかりに語り続けられてきた戦後の歴史もそろそろ原点にもどって見直すことも必要なことのように思う。「ビルマの堅琴」は昭和二十一

年の夏から書きはじめられ、二十三年まで雑誌「赤とんぼ」に連載された童話である。

共に戦い異境の地で心ならずも屍をさらし、朽ちていく日本兵の白骨の群れに出遇ってその悲泣する声を聞いてから、皆と一緒に故国に帰ることを断念した水島上等兵、ビルマ僧となつて堅琴を弾くその姿に涙したのは私だけではないかと思ふ。再読して思ふことは、彼の心情に涙しながらも彼が鎮魂の思いを注いだ兵士一人ひとりに向けての感謝はできていなか

生の根源問う透谷文学

永畑道子 雙蝶 透谷の自殺 藤原書店

麻生区向原 入江節次郎

「り」を「明治の文壇に吹き込んだ志士」が透谷だという。そして「その文章は、字句の一片に至るまで冴えて、宇宙の韻、星の吐息をきく思いが」と評される。

では透谷はなぜ若くして自殺したか。八年にわたる資料調査をもとに、ノンフィクションではなく歴史小説という形でこの謎を明か

つたということである。

戦後の平和があったから現在の豊かさがある。戦争に負けたから平和があったのか。国家は簡単に滅びるものではないように思っているのは傲慢ではないか。平和ボケが国を滅ぼすことだつてあり得ることだと思ふ此頃である。

効率至上主義の価値観が教育界や老人福祉の面にまでまん延していることを思うと、老人と子供のこと心配である。そこで提案ですが、孫に語り伝える戦争の話を書いてみようではありませんか。

の姿で登場する。

現在は文明が文化を破壊している時代であるとされるが、生きていることの根源を問い詰めることを通じて、この危機を早くも予見しているところに透谷の文学の今日的意義がある。このように永畑さんは述べているが、こうしたことをいろいろと深く考えさせられ、ともに語りたくなる一冊である。

この欄は読者からの投稿で作られています。一行十五字で四十三行です。住所、氏名、電話番号もお忘れなく。

講座・講演

①歌声のひろば②アンサンブルで歌おう③VOICETレーニング講座◆県立高津青少年会館①は来年1月5日、3月30日の毎週木曜、全13回。みんな楽しく歌おう②は来年1月6日、3月31日の毎週金曜、全13回③は来年1月11日、3月29日の毎週水曜、全12回。発声法の基礎を学ぶ。いずれも時間は19時から。対象は青年。定員15人。申し込みは☎(844)2101の同館。

①わくわく実験教室②やさしい先端技術講座◆東芝科学館①は12月10日(土)10時からと13時から。「静電気のひみつ」をテーマに冬にセーターを脱ぐ時ドアの取っ手に触った時に起きる静電気が、コピー機の印刷や車の塗装に役立っていることを解説。対象は小学生以上。親子の参加も歓迎②は12月16日(金)10時からと14時から。MRI最先端医療装置」と題し、磁気を利用して新しい医療技術について講義と実験。①②とも入場無料。定員は各回先着250人。申し込みは☎(549)2200の実験教室担当か講座担当。同館はJR川崎駅からバス。「麻生平和人権セミナー①前期「子どもと人権」②後期「ブルトニウムと核不拡散条約」◆麻生市民館ほか①は12月10、17日と来年1月14、28日の土曜。講師は横川和夫・共同通信社論説委員、板谷洋・弁護士ら。身近な問題と解決方法を考える②は2月18日、3月18日の毎週土曜、全5回。講師は梅林宏道・平和運動家、平岩敬一・弁護士ら。核保有国中心の条約を見直す運動や国際貢献、国連安保理事会入りについて考える。①②とも時間は10時から。対象は市内在住在勤の15歳以上の方。受講料無料。

定員40人。会場は12月10日と2月18、25日が生涯学習振興事業団小田急線新百合ヶ丘駅下車。申し込みは☎(951)3000の麻生市民館・中村さん。〔読書普及講演会◆多摩市民館〕来年1月28日(土)14時から、推理作家の鳥井架南子さんが講演。定員45人、先着順。申し込みは1月5日(木)から☎(935)3400の多摩図書館に電話か同館カウンターで。

催し



①市民天体観望会②天体写真撮影会◆青少年科学館①12月10日(土)。大望遠鏡で月(月齢7)、土星、星団を観望②は来年1月22日(日)。M31(渦巻銀河)を。対象は小学5年以上。定員8人。持ち物は一眼レフボディ、フィルム。いずれも17時半集合。雨、曇り中止。小学生は保護者と。申し込み①不要②12月22日(木)来年1月4日(水)に往復はがきに1月の天体写真撮影会希望、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区梶形7の1の2の同館へ。問い合わせは☎(922)4731。

①生田緑地のクモ・土壌昆虫②草木染め◇ドンダリ編◆市青少年科学館①来年2月2日(木)まで。生田緑地に生息するクモと土壌昆虫を実物や写真を展示②12月18日(日)13時半から、ドンダリで色を染める。参加無料。持ち物は筆記具、エプロン。定員先着20人。申し込み①不要②12月16日(金)9時から☎(922)4731の同館。〔まなざしの力/ケン・ローチ回顧展追加上映◆市民ミュージアム映像ホール〕12月4日(日)13時半から「まなざしと微笑み」▽16時から「祖国」。英国のケネス・ローチ監督作品。日本語字幕。料金は大人500円、子ども300円。問い合わせ

は☎(754)4500の西村さんか向野さん。〔オリヴァー・ストーン監督作品「天と地」◆麻生文化センターホール〕12月13日(火)10時半、14時、18時上映。ベトナム戦争を生き抜いたベトナム女性の物語。アメリカ映画。音楽は喜多郎。出演はヘップ・ターナー・リー・ジョーンズ。前売り千円、当日千200円。前売り☎(951)0533のケルン▽☎(955)3030のミツマル。問い合わせ☎(954)7147のアートサークル麻生(主催)。〔川崎臨海部景観デザイン募集〕「かがやき」と「ときめき」がテーマ。市制70周年を記念。デザイン対象構築物は、日本セメントのサイロ2基。応募資格は市内在住在勤在学者と各種団体。出品料無料。作品の規格は①B2判の用紙(横書)を2枚②応募作品は未発表のもの③点数の制限なし④

学習・文化情報

参加したい催しがある

色は5色以内(ほか下地1色は別。濃淡、中間色は1色とする)。審査委員は土田旭・都市環境研究所所長ら。大賞1点▽優秀賞3点▽佳作数点。大賞はサイロ壁面にペイント。応募方法は来年1月20日(金)まで。展示は来年3月7日(火)16日(日)KSPギャラリー。応募要項の請求と作品提出先は〒210川崎区宮本町1、市経済局工業課「川崎臨海部景観デザイン募集」担当☎(200)2334。

「G・アラヴィンダン映画祭」市制70周年記念◆新百合21ホール」12月3日(土)15時から▽5日(月)13時から▽4日(日)、6日(火)11日(日)13時半からと16時から。作品は黄昏▽追われた人々▽サーカスなどG・アラヴィンダン監督の作品7本。日本語字幕。8日(月)は休演。5日(月)15時5分から「インド映画とアラヴィンダン監督」をテーマにシンポジウム。パネラーはシャージ・N・カルン映画監督▽佐藤忠男・映画評論家ら。観賞料は一般500円、小中高大生300円。会場は小田急線新百合ヶ丘駅下車。問い合わせ☎(200)2029の市市民文化室内同映画祭実行委事務局。

「アウトドアセミナー野鳥観察」東京都秋川市平井川周辺」12月11日(日)8時からカワセミ、セキレイなど野鳥を観察。対象は小学5年以上。保険料300円、交通費は自己負担。定員20人。持ち物は弁当、筆記具、双眼鏡。申し込みは☎(222)5282の県立川崎青少年会館。

「珍魚展◆よみうりランド・マリンドーム」来年1月8日(日)まで。フウリユウウオ写真、シマイ



ザリウオなど珍魚20種50匹を展示。入館料は大人600円、子ども300円。別に入園料必要。休館日は祝祭日を除く火曜、年末、元日。同所は小田急線読売ランド前駅からバス。問い合わせ☎(966)1111。

ステージ

「皆で楽しもう」音と動きと響き」の世界」市制70周年記念◆新百合21ホール12月18日(日)14時から、東京バイピングソサエティのバグパイプ演奏▽デフ・パベットシアター・ひとみが「わんぱくサソウの大蛇退治」のおかぐら人形劇▽夏菟太鼓の和太鼓演奏。入場料は2千円。手話通訳付き。同所は小田急線新百合ヶ丘駅下車。問い合わせ☎(988)0165の菅原さん。

「芸能サロン」川崎能楽堂の四季95冬◆川崎能楽堂」来年1月28日(土)14時開演。三遊亭歌る多、神田紅出演の「新春話芸の楽しみ」女流落語と講談と」入場

料は2千500円。前売りは12月21日(水)から☎(222)7995の能楽堂。同所はJR川崎駅下車。問い合わせ☎(222)821の市文化財団。

「魅惑の室内楽」ウィーン・メッセ」市制70周年記念特別演奏会◆エポックなかはら」12月13日(火)19時開演。出演はウィーンフィル首席フルート奏者のマインハルト・ニードラー▽マイヤー▽ハープはヨセフ・モルナル▽クラリネット・山本正治▽バイオリン・鈴木明彦▽同・黒木薫▽ピオラ・萩原薫▽チェロ・間瀬利雄。曲目はモーツァルト「フルート四重奏二長調K285」▽ラヴェル「序奏とアレグロ」▽ビゼー「組曲『アルルの女』よりメヌエット」▽モルナール「日本メドレー」によるファンタジー」ほか。入場料は指定席5千円、自由席4千円。前売りは☎03(5237)9990のチケットぴあ。MUSEインターナショナル主催。問い合わせ☎045(824)

FANTASY かわさき イン ナイト '94

入場無料

12月23日(金) 16:30

7年1月15日(日) 16:30

クリスマス・アーベント

★ 光のイベント ファイナル・コンサート

出演 KCP(神奈川クラシック・プレイヤーズ)

出演 芸術村あすなろ

会場：川崎駅ビルBE 1階BEプラザ

主催：(財)川崎市生涯学習振興事業団

学習・文化情報

魅力的なステージがある

5651のえふ企画。

「ヘンデル「メサイア」

◆県立音楽堂」12月15日

(木)18時半開演。指揮は

星出豊・昭和音大教授。演

奏は同大管弦楽部、同大・

昭和音楽芸術学院合唱団。

独唱はソプラノ・種田尚子、

アルト・稲本まき子ほか。

入場料は全席自由・千五百

円。問い合わせは☎(95

3)1230の昭和音楽芸

術学院。会場はJR桜木町

駅下車。

「年末スペシャルコンサ

ートイン高津Voor・3

「ラテン・カンツォーネコ

ンサート」◆靴ホール」

12月4日(日)19時開演。

出演は峯藤高、中村豊+2。

入場料3千円。申し込みは

☎(812)6090の同

ホールJR南武線蔵蔵溝

ノ口駅下車。問い合わせは

☎(822)1982のス

ペース・西(主催)。

「登戸混声合唱団チャリ

ティー「ひとひらのあいコ

ンサート」市制70周年記

念◆エポックなかはら」12

月24日(土)14時開演。指

揮・片野秀俊。ピアノ・矢



野令子。曲目は大中恩の作
品から「サツちゃん」「い
ぬのおまわりさん」他▽湯
山昭の混声合唱組曲「朝明
けの世紀」より ふるさと

の綾歌▽たのしいクリスマ

スソング他。バイオリン・

酒井敏彦が「タイスの冥想

曲」チゴイネルワイゼン」

などをソロ出演。入場料は

全席自由・千五百円、小学

生・五百円。問い合わせは

☎(955)7977の森

田さん。

「クリスマスファミリー

コンサート「しゅうさえこ

☆歌とおはなしの夕べ」◆

市民ミュージアム」12月10

日(土)18時半開演。出演

はNHK「おかあさんとい

っしょ」第14代歌のおねえ

さん・しゅうさえこ▽サン

タクロース・原田克彦▽ピ

アノ・宮本一▽フルートと

シンセサイザー・上野善己。

料金は一般・千円、小中学

生・五百円。定員3百人。

申し込み、問い合わせは☎

(754)4500の同所。

「この街音楽祭」◆県

立川崎青少年会館」12月4

日(日)13時から、同館の

音楽講座受講生が吹奏楽、

ギター、コーラスを発表。

参加無料。定員百人。入場

整理券の申し込みは☎(2

22)5282の同館。

スポーツ

「健康・体力改善教室◆

市体育館」来年1月13日

3月31日の毎週金曜13時45

分から、全12回。講師は小

山内博・医学博士、今野廣

隆・高千穂商大教授。受講

料4千円。定員45人(抽選)。

申し込みは12月16日(金)

14時に同館へ直接来館。問

い合わせは☎(200)3

255の同館。

「スポーツ教室①ははじめ

てのバドミントン②ははじめ

ての卓球③トレーニングを

始めよう◆幸スポーツセン

ター」①は来年1月18日

3月22日の毎週水曜。講師

は塚本明美・バドミントン

指導員。シャトル代2千円

②は来年1月20日、3月24

日の毎週金曜。講師は岡野

恵美子・卓球指導員。ピン

ポン代千円③は来年1月21

日、3月25日の毎週土曜。

講師は臼井益夫・トレーニ

ング指導士。時間は①②13

時半から③18時半から。定

員は①②30人③20人。いず

れも全10回。対象は市内在

歌おう

'94少年の祭典



だれでもどんな楽器でも参加できる

1000人の大合奏・合唱

スペイン舞踊家

特別出演 / 花岡陽子さん

とき 12月18日(日)PM3:30 開場 PM4:00開演

ところ 川崎市教育文化会館

主催 ボロロを楽しむ会実行委員会

制作 芸術村 あすなる

共催 川崎市教委 他

後援 神奈川県教委、川崎市生涯学習振興事業団

学習・文化情報

みたい絵がある

住在勤在学で15歳以上。申し込みは1月13日(金)①②9時55分③18時25分に受講料を添えて同センター(555)3001に直接来館。

「スポーツ教室①卓球

(初級)②テニス(入門)③バドミントン(中級)◆

市体育館①は来年1月18日、3月22日の毎週水曜10時から。教材費千円②は来年1月19日、3月23日の毎週木曜18時半から。教材費2千5百円③は来年1月19日、3月23日の毎週木曜14時から。教材費2千円。①②③とも全10回。対象は市内在住の高校生以上。受講料4千円。申し込みは1月11日(水)の①③10時②18時半に同館に直接来館。問い合わせは(200)3255の同館。

「寒げいこ◆石川記念武道館」

来年1月6日(金)、7日(土)10時から剣道。14時からなぎなた。18時から少林寺拳法、空手道、柔道、合気道▽来年1月8日(日)10時から剣道、柔道、合気道。13時からなぎなた、

少林寺拳法、空手道。いずれも対象は小学生以上。参加無料。定員は剣道百人、他は50人。けいこ終了後、鏡びらき。申し込みは12月17日(土)10時から同館に直接来館。問い合わせは(544)0493の同館。

「①シェイプアップトレーニング②練功十八法◆麻生スポーツセンター」

①は来年1月17日、3月28日の毎週火曜13時半から。体の各部分についた脂肪を落とす、弱まった筋肉を正常にする②は来年1月17日、3月28日の毎週火曜18時半から。気功と西洋医学の知識を基にした健康体操をする。

①②とも全10回。対象は市内在住の15歳以上。受講料は4千円。定員40人(抽選)。申し込みは1月10日(火)①10時②18時半に同所に直接来館。問い合わせは(951)1234の同センター。

ギャラリー

「ギャラリー幸」12月9日(金)〜21日(水)、恒例

「寿」色紙展。正月を迎え美しい色紙の展示。木曜休廊。同所は(555)8181川崎駅西口下車。

「かわさきIBM市民文化ギャラリー」12月17日(土)まで「さまざまな目

66」後藤学、須賀昭・初二人展。水曜休廊。同所は(222)8821JR川崎駅東口IBMビル内。

「川崎市市民ミュージアム」12月11日(日)まで、「生誕百年記念 濱田庄司展」。川崎に生まれ川崎に眠る陶芸家「世界のハマダ」の偉大な足跡を紹介▽来年1月16日(月)まで「カワサキ・モニユメント」11人の写真家による都市川崎の変容の記録▽来年2月12日(日)まで「世紀末パリの街角」展。ロートレック、

ポナール、シエラら世紀末のパリで驚異の流行を呼んだ多色刷りポスターを展示▽来年4月23日(日)まで「国際読売漫画大賞傑作選展」。世界最大規模の同大賞の第1回から14回までの知られざる作品を展示。入館料一般3百円、小中高生

百円。月曜、祝日の翌日、年末年始は休館。同所は(754)4500武蔵小杉駅からバス。

「中小企業・婦人会館」1月12日(木)〜15日(日)雄草会「書道展」。臨書、詩文、一字書他。同所は(422)2525東横線武蔵小杉駅下車。

「中村正義の美術館」12月11日(日)まで「山下菊二と正義」展。山下菊二が描いた大江健三郎の文庫本カバー絵などの作品と正義との二人展。入館料一般5百円、学生3百円、小中2百円。月、火曜休館だが祝祭日は開館。12月12日(月)から来年2月28日まで休館。同所は(953)4936小田急線読売ランド前駅か京王線よみうりランド駅下車バス。

「画廊ランプ屋」12月7日(水)〜12日(月)「森の贈りもの」。テキスタイル女性作家五人展。クリスマスを迎えるためのタペストリーから小物までを展示即売▽15日(木)〜20日(火)「ランプ屋三周年記念感謝

展」。世話になった作家とお客へ感謝を込め、ランプ屋所有の版画などを記念価格で。同所は(945)4416JR南武線・京王線稲田堤駅下車。

「ミニ画廊喫茶・琴」12月1日(木)〜31日(土)

「風景写真展」日本中を旅するいぬい薫の作品展。同店は(544)0507JR南武線鹿島田駅下車。

「アートヨシムラ・新百合ヶ丘店」12月12日(月)まで、清水水窯「城所弘光陶芸展」。正月料理を盛る器を中心に展示即売▽12月14日(水)〜26日(月)、クリスマスフェア「ランプとイカール展」。同所は(965)3136小田急線新百合ヶ丘駅下車、エルミロード6階。

「ギャラリー華沙里」12月8日(木)〜25日(日)立山崇、佐野隆仁、桜井利雅の「グループ展」。同所は(954)2333小田急線新百合ヶ丘駅下車。

会員募集は休ませていただきます。

読者の声

楽しい季節を届ける表紙絵
西槻ヶ谷小 大河原美春さん

毎月、「Stage Up」が発行されるのを心待ちにして、楽しく読ませていただいています。

10月号の表紙絵「黒川の丘陵に咲くススキ」がとてもすてきです。表紙絵が、記事を優しくしているような気がします。表紙絵を眺めていると、私までが穏やかに優しくなれ、ついつい読み入ってしまうのです。

毎月、表紙を切り抜いて大切にしています。楽しい季節を届けてくださり、お礼を申し上げます。

ミニニュース

ゆりがおか児童合唱団が
細川ふみえとTV共演

来年、創立25周年を迎える「ゆりがおか児童合唱団」(山田栄子指揮)が、このほど、ポーラ化粧品が発売の健康食品のCMソングを吹き込んだ。テレビ画面ではタレントの細川ふみえが登場、同児童合唱団の「天使の歌声」が流れる。スポンサーの意図は、細川の健康美と天使の歌声

とのアンバランスの魅力がナライ?

知的障害者の短期介護施設建設に住民が反対

10月26日付けの神奈川新聞によると、川崎市が川崎区渡田に建設を計画している在宅の知的障害者のショートステイ施設「ラブリー渡田」の地元説明会が同24日、田島小体育館であり住民約60人が参加したが、

「良い悪いの判断ができない人が町内にくる。住民の安全が本当に確保できるのか」と強硬な反対意見が出て、市との主張が噛み合わなかった。「ラブリー渡田」は、知的障害者を短期間介護したり、昼間だけ預かる施設。障害者の親が病気で入院したり、外出や冠婚葬祭などに出席すると、介護者がいなくなるため、十分な社会生活ができない家族もいる。また、障害者を一人で留守番させることは家族にとつて不安だろつ。

市は「知的障害者は市内で3千人、川崎区内で6百人いる。建設は急務」との説明は、障害者とその家族の基本的な人権の見地からも説得力がある。一方、住民の「安全への不安」や「建設予定地は子供達を安心して遊ばせることができる場所なのに」との意見は、健常者家庭の言い分としては、それなりに理解できる。

しかし、同紙が掲載した会場の写真を見ると、プラカードが10本前後もあり「反対集会」と錯覚する。このムードと「良い悪いの判断ができない人が来る」「イコール「安全への不安」との視点とは無関係ではない気がする。

「自分の子供の遊び場を奪う障害者施設」と考えるのが、「障害者と共生できる施設が身近にできる」と考えるのかは、市民社会の質が問われる問題をはらんでいないだろうか。

編集後記

ことしは川崎市制70周年。これを記念して、市内で小澤征爾指揮による新日本フィルコンサート(6月)やベルリン交響ソリスト・コンサート、国際パー

カッション・フェスティバル(10月)などがありました▼たまたまお会いした、小田原の幼稚園理事長が「あの小澤征爾さんのコンサートには感激しました。川崎はすごいですね、小澤さんと呼べるなんて」と感心しきりでした▼川崎市はまちなイメーリアップに懸命な努力をしています▼JR川崎駅周辺の再開発でまちなイメーリアップが一新され、溝ノ口駅周辺も間もなく生まれ変わります▼しかし、都市のイメーリアップはハード面の整備だけで高まるような簡単なものではなく、むしろ、ソフト面での知恵をしぼり、絶え間なく努力することが決定的に大切かを小田原の幼稚園理事長の言葉が教えています▼多くの市民は「文化都市かわさき」の実現を願う▼新年度になったら文化度が「もとの木阿弥」にならないか▼心配する声も聞かれます▼新年度がソフトへ配慮のある予算になるかは「文化の尺度」そのものです▼小誌も文化度を高めなければ……。

発行 財団法人 川崎市生涯学習振興事業団

〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二 新百合21ビル
電話(044)951-5000 FAX(044)951-2350

編集人 田中 園

同事業団生涯学習情報コーナー

〒210 同市川崎区富士見二の一の三 教育文化会館一階
電話(044)1-331-6150

“ゆとり”に
差がでます。



TOM & JERRY
©1994 TURNER ENTERTAINMENT CO. ALL RIGHTS RESERVED

年金のことは〈はまぎん〉へご相談ください。

年金の「受取手続き」をはじめ、
いろいろなお手伝い。

年金受取ご予約サービス

年金のすべてを専門家が
分かりやすくご案内。

〈はまぎん〉の年金教室

毎月15日、年金自動受取をご利用の
皆さまに「特設窓口」を開設。

〈はまぎん〉年金感謝デー

お問い合わせ・お申し込みはお近くの〈はまぎん〉へどうぞ。

お問い合わせ・お申し込みは  **横浜銀行** 川崎支店 (044)222-5521(大代)



元気倶楽部

◆お湯も使えて便利です
株式会社 タイキ ジャパン

価格 230,000円
(消費税、工事費別)

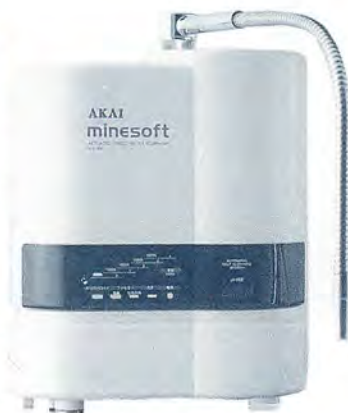
水を選ぶ人の 整水器はこれ!

●このアルカリイオン整水器は優れた性能で信頼を集めています。

- ☆健康にいい
アルカリイオン水
- ☆美容にいい
アストリンゼン水

- ◇自動洗浄機能
- ◇電解レベルスイッチ
- ◇カートリッジ交換
ウォーニング機能

ライフステージを豊かにする整水器をお手元にどうぞ



minesoft ミネソフト

AKAI 赤井電気株式会社

価格 198,000円
(消費税、工事費別)

いまなら2週間
無料貸し出し中

お気軽に無料カタログをご請求ください
☎ 044-954-4154 株ヒューマンテックコーポレーション
商品のご注文も電話で 川崎市麻生区万福寺1-8-7-306